

映画

ぼくが生きてる、ふたつの世界

場所 四日市市文化会館 第2ホール

(四日市市安島2丁目5-3)



10月3日 土

13時30分～15時30分 (開場13時)

申込不要
当日先着順
定員400名

日本語字幕有
手話通訳有
要約筆記有

- 四日市市に在住・在勤・在学の方が対象です。
- 可能な限り公共交通機関をご利用ください。中止の場合は、市ホームページ等でお知らせします。
- 満員となった場合は、入場をお断りさせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催

四日市市人権センター TEL 059-354-8609 FAX 059-354-8611

託児有
(1歳以上就学前)
お申込は
こちらから

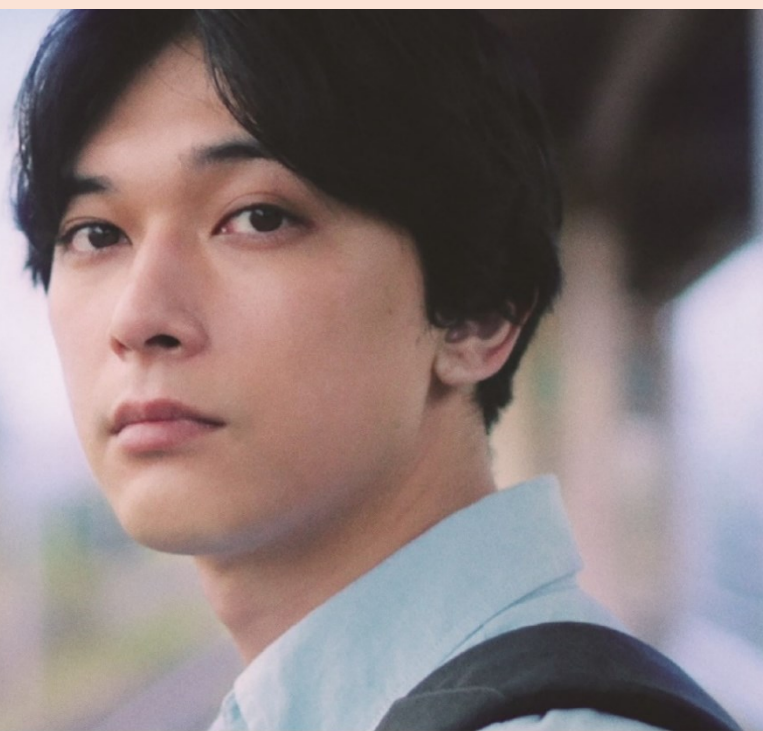


締切
9/19(金)

＊コードギョウキえない、またはきこえない親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードギョウキの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



監督：呉美保 主演：吉沢亮 脚本：港岳彦
忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん
原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里
原作：五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊)
企画・プロデュース：山国秀幸

製作：小山洋平 依田 伊藤義彦 野村弘幸 荒木宏幸 一力雅彦 藤ノ木正哉 鳥居明夫
企画：宮崎大 プロデューサー：長澤佳也 音楽：田中拓人 撮影：田中創 照明：溝口知 録音：小清水建治 美術：井上心平 装飾：櫻井啓介 小道具：吉永久美子
衣装：兼子調子 ヘアメイク：山内聖子 キャスティング：神林理央子 演技事務：榎原紫帆 助監督：水波主太 制作担当：柴野淳 協力プロデューサー：高橋潤
編集：田端華子 VFXスーパーバイザー：帆足誠 カラリス：石原泰隆 リレコーディングミキサー：野村みき サウンドエディター：大保達哉
ろう・手話演出：早瀬喜太郎 石村貴由美 コータ監督：福山信史 手話監修協力：一般財団法人 全日本ろうあ連盟
協賛：やまや/カメイ/NTTクラリティ
製作：「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダ・ラボラトリー/東宝DYミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマとうほく)
助成：文部科学省 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会
2024/日本/カラー/ビスタ/8.1chデジタル/105分/映倫：G
配給：ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/ X@FutatsunoSekai

Living in Two Worlds
ぼくが生きてる、ふたつの世界

この講座は、「よっかいち人権大学あすてっぷ2026」第7回講座(公開講座)です。四日市市では、一人ひとりが自分らしく生きることができるまちを目指して、「よっかいち人権大学あすてっぷ」を開講しています。あすてっぷでは、さまざまな人権についての講座を受講していただけます。日常生活の中で人権尊重の意識や行動がすみずみまで根付くことをめざし、一人ひとりが人権について広く学び理解を深める機会として、ご参加いただきたいと思います。

